

オプション教材ペンペングサ 暗唱長文集



●暗唱の手順 1 日分

・ 1 日目は、まず、**1**の文章を30回音読します。最初の数回はゆっくり正確に「てにをは」などを間違えないように読みます。

正確に読めるようになったら、ある程度早口で棒読みで、句読点などであまり息継ぎをせずに読んでいきます。

イスにきちんと座って読むと読みにくい場合は、歩き回りながら読んでもかまいません。

お母さんやお父さんは、読み方の注意などは一切せずにただ優しく褒めるだけにしてください。

15回ぐらいでもう空で言えるようになることが多いと思いますが、できるだけ30回続けて読んでください。

なぜ回数を決めて繰り返すかという、と、「覚えられたらよい」という目標でやっていると、暗唱の教材が難しくなったときに、「難しいからできなくなった」ということになりがちだからです。「決まった回数を繰り返す」という目標でやっていると、難しい教材になっても同じように暗唱ができます。

30回音読しても暗唱できない場合は、もう10回音読してください。

これでその**1**の文章が暗唱できるようになります。

それでもできない場合は、暗唱の自習はいったん終了してかまいません。また機会を見てやっていきましょう。

●暗唱が難しいときは

暗唱のような短い時間の学習は、夕方にやろうとすると忘れてしまうことがあります。また、毎日同じようにやらないとできるようになりません。できるだけ、朝ご飯の前などに、家族のいる中でやるようにしましょう。

そして、暗唱を毎日やるのが難しい場合は、暗唱の自習はせずに、読書の方に力を入れていってください。

●暗唱の手順 1 週間分

- ・ 1 日目に、**1**の文章を暗唱できるようにします。
- ・ 2 日目は、**2**の文章だけを同じように30回音読し、暗唱できるようにしておきます。
- ・ 3 日目は、**3**の文章だけを同じように30回音読し、暗唱できるようにしておきます。
- ・ 4 日めは、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。すぐに暗唱できなくてもかまいません。
- ・ 5 日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。
- ・ 6 日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。
- ・ 7 日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。すると、**1**から**3**の全部の文章が暗唱できるようになります。

●暗唱の手順 1 か月分

- ・ 1 週目に、**1**から**3**の文章を暗唱できるようにします。
- ・ 2 週目は、もう**1**から**3**はやらずに、今度は**4**から**6**の文章を暗唱します。
- ・ 3 週目は、同じように、**7**から**9**の文章を暗唱します。
- ・ 4 週目は、**1**から**9**の文章を全部通して、毎日4回ずつ音読します。
- ・ すると、1 か月で**1**から**9**の文章が暗唱できるようになります。

●暗唱の活用

・ 暗唱のコツをつかむと、自分の好きな本の1部を暗唱したり、英語の教科書を暗唱したりできるようになります。また、覚えるつもりがなくても、物事が頭に入りやすくなります。

●こんなやり方もあります

暗唱が続けにくいときは、こんな方法もあります。（1）お母さんが読むのを聞かせてあげて親子で一緒に暗唱する、（2）子供が自分の声をICレコーダに吹き込みそれを聴く。いろいろ工夫してみてください。

1初めて金槌で釘を打ったのは、小学校にあがったばかりのころだった。狙ったところになかなか打てなくて、釘が曲がった。兄が、「貸してごらん」と言って金槌を取り、曲がった釘を伸ばしてから数回釘の頭を打つと、スコン、スコンという小気味よい音がして釘は見事に板に埋め込まれた。**2**釘を打つという一見単純な動作に見えることにも、技の熟練度が深く関わっている。こんな体験から、私は次第に自分で釘を打つたり、のこぎりで板を切ったりすることが好きになった。しかし、気分が乗らないときは、釘の頭ではなく指を打つことがある。**3**そのかわり、明るい気持ちで打つと、きれいに釘の頭に命中する。このことは、物に限らず、人との関係にもまた当てはまるのではないか。私たちは、自分以外の世界と対話することによって自分自身を形成していくのだろう。

4では、その対話を充実させるためには、何が必要なのだろうか。第一は、いつも自分の手足を使ってみるようにながけることだ。水泳の練習は、畳の上ではできない。まず、水に入って手足を動かすことから始めなければならぬ。**5**見るだけ聞くだけの学び方は、一見能力がよいように見える。しかし、自分の体験を通して学んでないことには、確実性が不足している。例えば、うちひしがれている誰かに声をかけてあげられるのは、自分もやはり同じようにうちひしがれた経験を持つ人だけだろう。

6第二には、そのような対話を可能にする社会の仕組み作りだ。リアルな対話の反対側にあるのは、インターネットに代表されるバーチャルな対話である。バーチャルな対話を支えているものは、グローバルで不特定な世界だ。**7**リアルな対話とは、ローカルで顔の見える個人によって担われる。例えば、地域のお祭りなどがそうだ。そのリアルなつながりを、お祭りのような限られた行事としてだけではなく、日常的な経済活動として行うことが地域の人と人とのつながりを回復する。**8**その地域で生産されたものを、その土地の人が消費する。そういう世界を通して、人と人とのつながりも、人と物とのつながりも再構築されるはずだ。

9確かに、対話には時間がかかることも多い。釘の打ち方を人間が気長に学ぶよりも、機械に任せてしまった方が能率は、はるかに高い。対話を通して政策を決めようとするれば、利害の対立から何も決断できなくなることもある。**0**しかし、人間が生きているのは合理性のためではなく、人間らしい生き方をするためである。対話とは何かのための手段ではなく、それ自体が一つの目的であると考えるとき、真に物と人との対話のある社会が生まれるのではないだろうか。

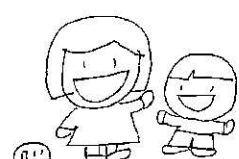
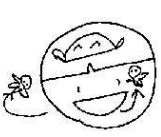
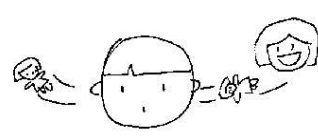
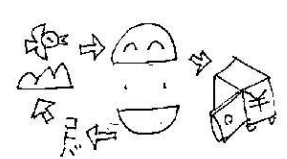
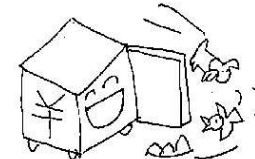
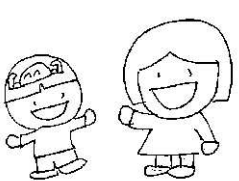
(言葉の森長文作成委員会 M)

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

暗唱の仕方



暗唱の意義	 子「どうして、暗唱するの」 母「あーん、しよれはね」 「……」	 自分の音読した声が耳に入ると、	 脳が、「これはのどと耳の両方から来ているから大事な言葉だ」と思う。
 だから自分の言っていないことは、右から左に抜けることも多い。 母「勉強してるの？」	 同じ言葉をくりかえしている と、言葉がイメージとなって 脳の金庫に保管される。	 しかも、イメージは、いくら つめこんでも大丈夫。 「パクパク」	 母「そして、脳が丈夫になるのよ」 子「そうなのう」

●暗唱のコツ

暗唱のコツは、ただ回数をくりかえして音読することだけです。
最初は正確に読み、慣れてきたら、できるだけ早口で滑らかに音読した方が早く暗唱できるようになります。
暗唱をする時間を、朝ご飯前の10分間などと毎日ほぼ確実にできる時間帯に決めておきましょう。
暗唱は覚えることが目的ではありません。文章を自分の体の一部となるようにすることが目的です。歌を歌う練習をするつもりで暗唱していきましょう。

■暗唱すると

●1、頭がよくなる

思考力の骨組みとなる語彙や考え方が自分のものになるからです。

●2、作文がうまくなる

語彙や文のリズム感などの表現力が自分のものになるからです。

●3、勉強ができるようになる

複雑なものを覚えることが苦にならなくなるからです。

■暗唱の成果はどんなところに

●江戸時代の寺子屋教育の基本は暗唱

寺子屋教育の基本は、百字の文章を百回読むことでした。この勉強法によって日本は当時世界一の識字率を達成していました。
(江戸時代の日本の識字率70?80%、同時代のヨーロッパの先進国の識字率20~30%)

●ノーベル賞の湯川秀樹も小1から暗唱

湯川秀樹と3人の兄弟は、それぞれ5、6歳から四書五経の素読をさせられました。そして、全員が学者になりました。
そのときの勉強法は、論語を漢字のまま意味もわからないまま音読し暗唱するという方法でした。
(芳樹(兄、冶金学者、東大教授)、茂樹(兄、歴史学者、京大教授)、環樹(弟、中国文学者、京大名誉教授))
しかし、湯川秀樹は後年、素読は役に立ったが、読めないし意味も分からない文章を読むのは苦痛だったと述べています。

●暗唱を生かした著名人

暗唱を自分の実際の勉強に生かした著名人には次のような人がいます。

- 貝原益軒（1630-1714）……81歳のときに著した「和俗童子訓」で四書五経を毎日百字百回暗唱するという勉強法を提唱しました。益軒の影響は日本全国々に及び、江戸時代の日本の教育の大きな方向を決定しました。暗唱は子供だけでなく、大人にとっても価値があると述べています。
- 塙保己一（1746-1821）……盲目でありながら当時日本全国に散らばっていた600冊以上の学術書を編纂するという偉業を成し遂げました。その伝記は、ヘレン・ケラーにも大きな影響を与えました。18歳のとき般若心経を毎日100回1000日間暗唱するという誓いを立て実行しました。また、晩年まで折に触れて暗唱をしていました。
- シュリーマン（1822-1890）……独学で十ヶ国語以上をマスターしトロイアの都を発掘しました。そのときの勉強法が、外国語を辞書にも文法書にも頼らず大声で音読し暗唱するという方法でした。生まれつき弱かった記憶力が、この勉強法で改善したと述べています。
- 本多静六（1866-1952）……林学博士。暗唱の勉強法で東京農林学校（今の東大農学部）を首席で卒業しミュンヘン大学経済学博士号を取得しました。大学1年生のとき数学で赤点を取りましたが、一念発起し数学も丸ごと暗唱するという方法で学年トップになりました。子供時代、家の仕事を手伝いながら文章を暗唱するという勉強法をしていました。大学には作文の点数がよくて合格できたと述べています。
- 野口悠紀雄（1940-）……経済学者。自身の中学高校時代の経験から英語の勉強法として音読暗唱を提唱しています。高校時代、英語は教科書をただ音読するだけで好成績を維持し東大工学部に合格しました。しかし、そのように単純な方法なのに実践する人が少ないと述べています。

■ 暗唱の例

●長文の見本

2週の1日目30回

2週の2日目30回

2週の3日目30回

2週の4日目10回

2週の5日目10回

2週の6日目10回

2週の7日目10回

4週の1日目4回

4週の2日目4回

4週の3日目4回

4週の4日目4回

4週の5日目4回

4週の6日目4回

4週の7日目4回

読まなくてよい

暗唱用長文 きょうりゅうのたまご (小1・小2)

1週の1日目30回

1週の2日目30回

1週の3日目30回

1週の4日目10回

1週の5日目10回

1週の6日目10回

1週の7日目10回

3週の1日目30回

3週の2日目30回

3週の3日目30回

3週の4日目10回

3週の5日目10回

3週の6日目10回

3週の7日目10回

● 1 週目の読み方

文の出だしに **1・2・3・4・5・6・7・8・9・0** という番号がふつてあります。
1 週間 7 日間、長文の暗唱をする場合、**1** が 1 日目の 1 0 0 字、**2** が 2 日めの 1 0 0 字、**3** が 3 日目の 1 0 0 字です。
そして、4 日目、5 日目、6 日目、7 日目は、**1・2・3** の 3 0 0 字を通して暗唱します。

● 2 週目、3 週目、4 週目の読み方

同じようにして、2 週目は、**4・5・6** を暗唱します。3 週目は、**7・8・9** を暗唱します。
そして、4 週目は、**1・2・3・4・5・6・7・8・9** の 9 0 0 字を通して暗唱します。**0** から先は暗唱しません。

● まず 1 週目の 1 日目

1 の 1 0 0 字を 3 0 回音読します。

た

1

「ロッキング」

「ドッスン」

と大きな音を出して、市民会館

が壊れていくのが、教室からよく見えます。

休み時間に、六組の生徒と生徒が廊下へ出て、「生霊会」で

ました。ばくたの先生も、ばくたの「端」に廊下へ出てみまし

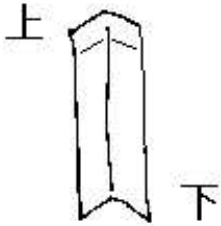
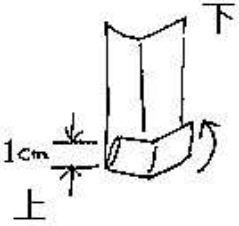
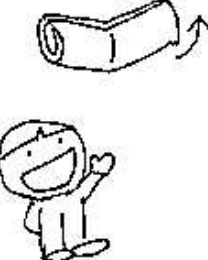
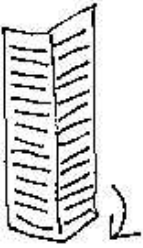
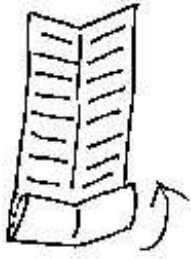
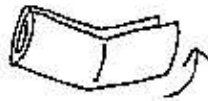
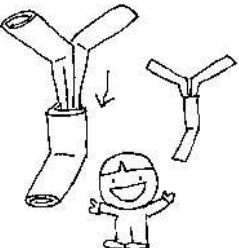
● 紙を折って数える暗唱法

紙を折って数えるお t、3 0 回の音読がやりやすくなります。
A 4 サイズの紙を次のように切ります。

1 日目	2 日目	3 日目	4 日目
			5 日目
			6 日目
			7 日目

● 30回読むとき

1日目の4分の1のサイズの紙を図のように折って、1回目の暗唱に使います。

1日目	1000字の暗唱用は、長い方の紙を縦に谷折に二つに折る。そのあと上から山折りに折る。 	1センチぐらいに折っていく。 	15回ぐらいで全部折たためる。 	1000字を1回読むたびに1回ずつ開いていく。 
	全部開いたら15回読んだことになる。これで約5分。 	続けて読みながら、今度は折りたたんでいく。 	全部折りたたんだら、30回読んだことになる。これで約10分。これを大枝と呼ぶ。 	3日間3本の大枝をY字型に組み合わせて暗唱の木を作る。 

● 1週目の2日目、3日目

2日目には**2**の長文を同じように30回音読します。3日目には**3**の長文を同じように30回音読します。

2 「ドッカン。」「ガラガラガラッ。」「ドッカン。」「ガラガラガラッ。」市民会館が、ぼろぼろに壊れていきます。今度は、あの大きな石を、「ドッカン。」と一から落とします。すると、コンクリートのかなりが小さく砕けます。

2 そのうちに、四組の先生も生徒も出てきて、廊下の奥は、いっぱいになりました。クリーンカーが、太い針金のロープに大きな石を小さくけて、一回振って、一「ドッカン。」と、市民会館の建物にぶつける。「ガラガラガラッ。」と、市民会館が落ちてきます。

● 1週目の4日目

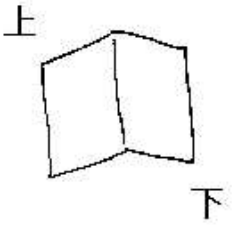
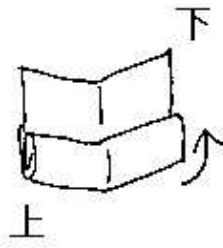
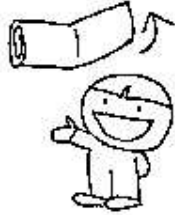
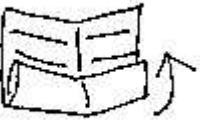
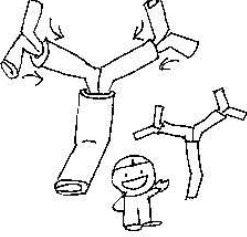
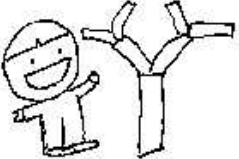
4日目には、**1・2・3**の3000字を通して10回暗唱します。

3 「ドッカン。」「ガラガラガラッ。」「ドッカン。」「ガラガラガラッ。」市民会館が、ぼろぼろに壊れていきます。今度は、あの大きな石を、「ドッカン。」と一から落とします。すると、コンクリートのかなりが小さく砕けます。

1 「ドッカン。」「ドッカン。」と大きな音がして、市民会館が壊れていくのが、教室から見える。休み時間に、六組の先生と生徒が廊下へ出て、一生懸命見えました。ぼくたちの先生も、ぼくたちと一緒に廊下へ出てみましたが、そのうちに、四組の先生も生徒も出てきて、廊下の奥は、いっぱいになりました。クリーンカーが、太い針金のロープに大きな石を小さくけて、一回振って、一「ドッカン。」と、市民会館の建物にぶつける。「ガラガラガラッ。」と、市民会館が落ちてきます。

● 10 回読むとき

300字を読むときには、4日目の16分の1のサイズの紙を図のように折って数えます。

	4日目からは、300字暗唱用の小さい方の紙を折る。 	1センチぐらいに折っていく。 	5回ぐらいで全部折りたためる。 	300字を1回読むたびに1回ずつ開いていく。 
全部開いたら5回読んだことになる。これで約5分。 	続けて読みながら、今度は折りたたんでいく。 	全部折りたたんだら、300字を10回読んだことになる。これで約10分。これを小枝と呼ぶ。 	4日間4本の小枝を、大枝の先にY字型にさす。 	1週間で暗唱の木が1本できる。 

● 2週目、3週目の暗唱

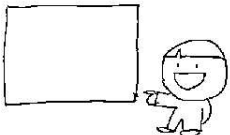
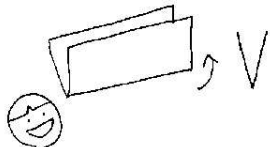
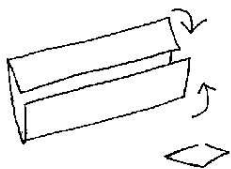
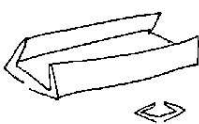
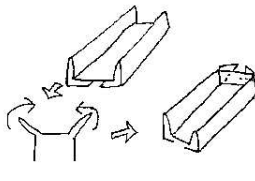
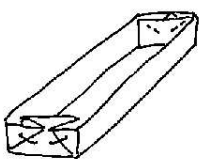
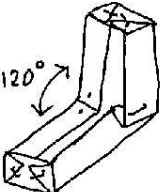
1週目に1・2・3の300字を暗唱できるようにしたあと、2週目には、同じように4・5・6を暗唱します。そのとき、1・2・3はもう暗唱しません。
3週目には、同じように7・8・9を暗唱します。そのとき、1・2・3・4・5・6はもう暗唱しません。いずれも、300字がすらすら暗唱できるようになったら、イメージ化で出だしの言葉を覚えておきましょう。

● 4週目の暗唱

4週目には、1・2・3・4・5・6・7・8・9の全部で900字を通して毎日4回暗唱します。
4回読むときは、指を折って数えます。
4回読んだら、暗唱の木を2本ほどきます。（そうすると、また次の月に使えます）

暗唱フォンの作り方

周囲が騒がしいときは、暗唱フォンを作って自分の声をしっかり聞きましょう。

●暗唱フォンシングル型 A4の紙を1枚用意します。 	1枚を二つに折ります。 	二つに折った線を基準に三つに折ります。 	裏返してまた三つに折ります。 
片側の端を箱を作るように折り立ててホッチキスで止めます。 	両側の端を同じように止めて長い箱を作ります。 	箱の真ん中あたりを折って120度ぐらいの角度にしてホッチキスで止めてできあがり。 	

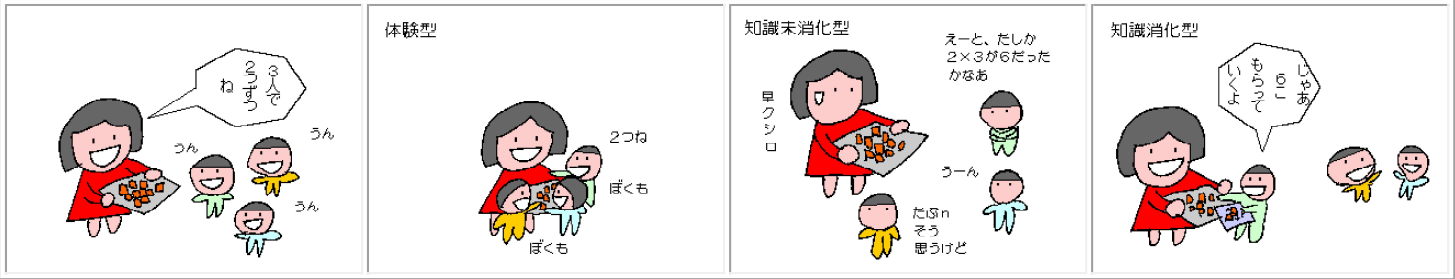
●思考力を育てる暗唱

記憶や反復や音読や暗唱が、理解や思考と相反するという考えを持つ人がいます。例えば、丸暗記という言葉には、自分で考えない、表面的な知識だけ、というニュアンスがあります。暗唱も、この丸暗記と同じようなものだと考えている人もいます。

しかし、記憶が、思考に対して弊害になるのは、その記憶が徹底していないときです。つまり生兵法の記憶、一夜漬けの記憶のときに記憶が弊害になるのです。消化され自分のものになった記憶は、思考を深める役割があります。

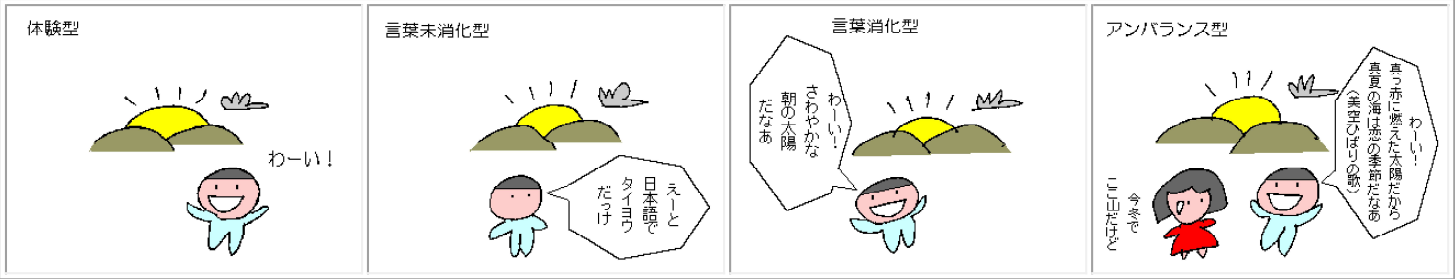
例えば、九九というものを考えてみるとわかるように、ほとんどの人は、九九を消化しているので記憶による弊害というものを感ぜません。しかし、九九を覚えておけるときは、九九を使うことによって実感よりも劣る面が出ていたこともあったのです。

お菓子を分ける（九九もうろ覚えのときは、体験のブレーキとなることがあります）



同様に、言葉も、覚えかけのときの言葉は、実感よりも劣る面があります。未消化の言葉によって、体験がかえって浅くなる時期があるのです。しかし、言葉が消化されたあとは、体験は言葉によって深くなります。

さわやかな朝（言葉は体験の内容を豊かにしますが、体験が不足していると言葉が先行してしまうこともあります）



暗唱は、言葉による物の見方感じ方考え方を蓄積することです。

しかしもちろん、暗唱以外にも、言葉を蓄積する方法はあります。例えば、たくさん話を聞くこと、たくさん本を読むことです。多くの話を聞いたり多くの本を読んだりすることによって同じ文章に触れる機会を増やすことができます。つまり、同じ文章や同じ文脈に何度も触れることによって、理解するための言葉が表現するための言葉になっていくのです。

この表現語彙と理解語彙には、大きな違いがあります。例えば、英語を読む力を10とすると、ほとんどの人の英語を書く力は1程度のはずです。誰でも名作を読んで感動することができますが、同じような名作を書ける人はほとんどいません。理解語彙のレベルと表現語彙のレベルは大きく異なるのです。

消化された表現語彙を蓄積する方法として、日本人は暗唱というやり方があることを知っていました。九九、百人一首、いろはガルト、素読などは、日本人が開発した教育の方法でした。

しかし、この百人一首などに見られるような記憶反復の伝統は、戦後急速に失われ、それまでの記憶や反復の学習に取って代わったものは理解と思考の教育でした。ところが、理解と思考の教育は、一斉指導と結びついていたために教える側の負担が大きく基礎学力の低下を生み出しました。その学力低下を補うものとして、公文式や百ます計算のような記憶反復の方法が登場したのです。しかし、新しい記憶反復の方法は歴史が浅かったために、その方法が万能であるかのような行き過ぎも生み出しました。

この記憶反復の方法と理解思考の方法を統合するのが、読書、作文、暗唱を結びつけた学習です。

暗唱の本当の目的は、記憶ではありません。勉強を進めるための目安として覚えることを目標にしていますが、覚えることそのものは決して重要なことではありません。記憶力を高めることや記憶量を増やすことは、暗唱の副産物にすぎません。

この記憶の副産物に関して、世間では、暗記や暗唱を役立つ知識や文化的な伝統に結びつけようとする傾向があります。例えば、「〇〇の首都は□□」というような知識を増やすような暗記や、平家物語や枕草子の一部を覚えるような暗唱です。

暗唱を表現語彙として役立てようとするのであれば、自分がこれから書く作文に結びつくような現代文の事実文、説明文、意見文を中心に暗唱していく必要があります。

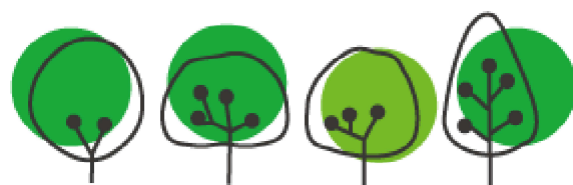
暗唱の真の目的は、反復練習によって物事を把握する力をつけることです。塙保己一が般若心経約300字を毎日100回ずつ1000日間暗唱し、しかも晩年にいたるまで折に触れて暗唱を続けたということを見てもわかるように、宗教的な面を抜きにすれば、これは決して単なる記憶の練習だったわけではありません。将来この暗唱の仕組みが脳科学的に解明されるようになると思いますが、当面は暗唱の目的は、記憶よりも理解や思考の方にあると考えておくことが大事です。事実、大人の人が暗唱を始めると、記憶力がよくなるということよりも、発想が豊かになるという感覚を持つことが多いと思います。

ただし、どの学習にもバランスは必要です。言語と経験の間にもバランスというものがあります。ルソーは、子供時代に本を読みすぎて自分が言語先行型の人間になったことへの反省から、自然教育の「エミール」を著しました。体験が伴わない時期に言語を吸収しすぎると、やはりバランスが崩れる場合があります。もちろん体験ばかり広がって言語が伴わない生活はあまり人間的とは言えませんが、言語が経験よりも大きくなることもやはり人間的な成長とは言えません。

言葉の森の暗唱の自習は1日10分程度ですから、このようなアンバランスを生み出す心配はありませんが、日常生活の心がけとして、言語的な学習と並行して家の手伝いや自然との触れ合いなど経験の時間を増やしていくことは大事です。

●暗唱に関するQ&A

- Q** 学校での音読の宿題と重なるので、子供が嫌がってしまいます。
- A** 学校の宿題は夕方の家庭学習の時間にやり、言葉の森の自習は早朝にやるようにしてください。時間が離れていれば負担に感じません。
- Q** 低学年なので、100字でも読むのにすごく時間がかかります。
- A** 時間はかかってもかまいません。気長に決めた回数だけ音読してください。
- Q** 決められた回数まで音読しても覚えられません。
- A** 覚えることが目的ではありません。決められた回数だけ音読できればそれでよしとしてください。
- Q** 「している」を「してる」などと間違っ自分なりに読んでいます。
- A** 注意のしすぎにならない程度に、ときどき正しい読み方を教えてあげてください。
- Q** 声を出さずに読んでいます。
- A** 声を出した方が頭に残りやすいと教えてあげてください。自分にだけ聞こえる小さい声でかまいません。
- Q** ふざけて早口で読んでいます。
- A** ふざけるのも早口も一向にかまいません。楽しく読んでください。
- Q** 子供にとって意味がわからない難しい言葉があります。
- A** 何度も読んでいうちに子供自身から質問が出てきますから、そのときはお父さんやお母さんが手短かに教えてあげてください。自分で辞書を引いて調べさせるという考え方もありますが、暗唱の定着を目的としているときはできるだけほかの作業はさせない方が続けやすくなります。
- Q** つっかえながら読むので、とても近くで聞いてもらえません。
- A** そういうときこそ、読み終えたときに、「じょうずに読めるようになってきたね」と褒めてあげてください。
- Q** 数回読むと簡単に覚えてしまうので、それ以上続けて読む気になりません。
- A** 覚えることが目的ではありません。スポーツの準備運動で行うランニングと同じものでくりかえすことで体力がついてきます。
- Q** 長いので、とても覚えられるようになるという気がしません。
- A** 歌を覚えるのと同じです。かなり長い歌詞でも歌なら自然に覚えてしまいます。
- Q** 暗記よりも考える力が大事だと聞いたことがあります。
- A** 弊害があるのは、中途半端な暗記や低レベルの暗記です。本格的な暗唱は考える力を高めます。
- Q** 暗唱だけして、課題の長文の音読をしていません。
- A** できれば、毎週の課題の長文を中心に長文を1編音読し、そのあと暗唱の長文で暗唱をしてください。しかし、両方できない場合は、とりあえず暗唱だけをしっかりとできるようにしてください。
- Q** 録音したものを聴く形で、暗唱の代わりにになりますか。
- A** ある程度はなります。しかし、録音には機器や準備が必要ですが、音読には不要です。また、自分で声に出したものの方が定着しやすくなります。
- Q** 1日のうちに朝、昼、晩と何回も暗唱をして、先に進みたいのですが。
- A** いい心がけです。どんどんやってください。ただし、何かを新しく始めたとき子供は飛ばしすぎる傾向がありますから、親の方でコントロールしてあげてください。
- Q** 英語や社会や古文で暗唱の宿題がありますが、同じようにできますか。
- A** 同じやり方で簡単にできます。
- Q** 寝る前に覚えた方が記憶に残ると聞きました。
- A** 寝る前に覚えた方が定着します。しかし、大事なものは毎日の継続です。生活の中で毎日確保できる時間帯でやってください。その意味で朝食前の時間帯をすすめています。
- Q** 文章が長くなると、最初に覚えたものを忘れてしまいます。
- A** イメージ記憶を使えば忘れにくくなります。
- Q** 1回覚えた900字の文章は、ずっと覚えていた方がいいのですか。
- A** 自分の好きな文章であればそうしてください。しかし、普通は、次の900字の文章を覚えるときは、前の文章はもう忘れてかまいません。
- Q** 暗唱を親の私もやってみたいのですが。
- A** 大人では、更に発想が豊かになるという効果があります。しかし、子供と一緒に始めると親が先に挫折したときに説得力がなくなりますから、続けられる自信がつくまではひとりでやってください。



1 手に触れるものをすべて金にしてほしい。そう願った王様は、食べるものも、着るものも、すべて金にしまい、やがて最愛の娘までも金にしよう。ギリシャ神話に出てくるミダス王の話である。

2 豊かな社会を追いつめてきた人類の歴史も、このミダス王に何か似ていないだろうか。強い国を願って作られた核兵器は、相手を減ぼすばかりか、地球をも減ぼすようになった。豊かな資金運用を願って作られた金融工学は、その資金の何倍もの返せない借金を生み出した。

3 そしてまた、豊かな社会を作るための経済活動の発展は、環境破壊という人類にとっての新たな貧困を生み出している。私たちは、量を追いつめるあまり、制御することの大切さを忘れていないのではないか。

4 その原因は、第一に、世界の戦後の歴史が、不足からの自由という観念につき動かされてきたからだ。昔話に出てくる意地悪なおばあさんは、必ず大きい箱をもらう。しかし、大きい箱に入っているのはガラクタであり、本当の宝物は小さい箱に入っている。

5 これは、昔の人たちが、大事なものは大きさではないということを、よりよく生きるための知恵として身につけていた証拠ではないだろうか。不足から過剰へと一直線に進んできた私たちの生活も、今一度先人たちの知恵に立ちかえって見直す必要がある。

6 第二の原因は、量の拡大を求める心理には、必ず競い合う他者がいるということである。国と国との関係で言えば、どの国のGDPが世界で第何位かということが、さも重要なことであるかのように論じられることが多い。大事なことは、GDPの額ではなく、その国に住む人が自分たちの生活をどのくらい幸福と感じているかどうかであるはずなのである。

7 飽食のニワトリの群れに飢えたニワトリを入れたら、その飢えたニワトリにつられてすべてのニワトリが再びえさを食べ出すという。基準を自分の中に持たず、他者との比較の中に見る私たちも、このニワトリたちと変わらないのではないだろうか。

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

8 確かに、世界にはまだ貧困に苦しむ国も多い。量の問題は、人類全体として考えれば、まだ解決されていない課題だと考える人もいるだろう。しかし、その貧困でさえ、原因のほとんどは政治の貧困であつて量の貧困ではないのである。

9 科学者は、長い間量の問題に取り組んできた。しかし、これから求められるのは制御の問題である。手に触れるものが金になるのは素晴らしいことだ。しかし、そのためには、あるものは金にして、あるものは金にしないという制御を自身でできなければならない。

0 制御の問題が解決されたとき、初めて人類は、金と、おいしい食事と、最愛の娘とが両立する、真に豊かな社会を作り出すことができるのである。

(言葉の森長文作成委員会 M)

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

1 ひどりでいるときも、良心が働いている。誰も見ていなくても、道にごみを捨てようと思わない。そういう倫理観を、私たちは持っている。それは、自分の中に内在的な価値観があるからだ。遠い昔、父や母によって教えられられてきたしつけが、自然に自分の中に移しかえられ育まれて、自分自身の倫理観として育ってきたものだろう。2 「天知る。地知る。子知る。我知る」という言葉がある。ふたりだけの隠し事と言っても、天も、地も、あなたも、私も知っている、という意味だ。この内在的な価値観が、社会の安定の基礎になっている。3 しかし、ここで問題になるのは、私たちが内在的な価値観に制約されることによって、真に自由な判断ができなくなってしまう場合もあるということだ。人がある宗教を信じる際の最も大きな要因は、その両親もその宗教を信じていたからだということが多い。4 自分で選んだと思っていたものが、実は無意識のうちに刷り込まれた幼児期からの価値観だったとすれば、人間どうしの対話は根本的なところでやはり成り立たないだろう。5 では、どうしたらよいのだろうか。一つの対策は、自身の内在的な価値観に自覚的であることだ。私たちの多くは、自分の国や自分の民族に誇りを持っている。しかし、それは、往々にして他の国や他の民族に対する蔑視に結びつくことがある。それは、私たちの価値観が、実は他から刷り込まれたものであることを示している。6 自分の価値観の原点を探れば、そこに両親だけでなく、マスメディアや政治や文化からの影響を見ることができよう。大事なことは、価値観を持つことではなく、自覚した価値観を持つことなのだ。

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

7 もう一つの対策は、異なる価値観を持つ人どうしの間でオープンな対話を保証することだ。犬とサルが出会えば、喧嘩をするしかない。互いの相違を対話によって埋めるだけの共通の土俵がないからだ。8 しかし、人間は、たとえ話す言語が異なっているとしても、異なる思想や価値観を共通の論理によって論じることができる。もしオープンな対話がなく、各人が自身の内在的な価値観だけによって生きていくだけなら、子供はのびのびと遊ぶべきだと考える人は、いつまでも子供を公共の場で騒ぎ回らせるだろう。9 また、逆に公共の場では、子供もルールを守るべきだと考える人は、いつまでも騒ぐ子供を許せないだろう。この異なる価値観を対話によって止揚させるのが、犬やサルにはできない人間の知恵である。10 確かに、今の世の中を広く見渡せば、価値観の対立の問題よりも、価値観の不在の問題の方が大きいように見える。しかし、ある人にとって価値観の不在と見えることが、実はその相手にとっては明確な価値観に根差していることもある。例えば、「そのようなことは重要だとは思わないので、どちらでもいい」というのも一つの価値観だ。「天知る。地知る。子知る。我知る」という故事は、そういう内在的な価値観を持つていたことに意義があるのではなく、その内在的な価値観が相手に伝わり共有できたというところに本当の意味があつたと見なければならぬ。

（言葉の森長文作成委員会 M）

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34